

第27回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月10日（金） 14：00－15：40

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、中村委員、
中須賀委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、
佐藤参事官

(3) 関係省庁等

外務省総合外交政策局宇宙室長	齋藤 敦
文部科学省研究開発局宇宙利用推進室長	庄崎 未果
経済産業省製造産業局宇宙産業室室長補佐	徳弘 雅世

(4) 説明者

株式会社 i s p a c e 代表取締役	袴田 武史
------------------------	-------

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 宇宙資源の探査・開発について

資料1に基づき株式会社 i s p a c e から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○宇宙資源とは、具体的にはどういうものを想定しているか。

●水を想定している。水を水素と酸素に分離し、深宇宙へ行くための燃料や地球近傍域での活動に用いる予定。

○7ページの、ハーグでのワーキンググループではどのような議論があったのか。

●資源探査・採掘の許可の出し方や、干渉があった場合の対応の仕方、環境・サイエンスへの配慮等。

(2) 宇宙科学・探査小委員会の検討状況について

資料2、資料3、参考資料1、参考資料2に基づき事務局から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○ I S E F 2 は日本がホスト国となっていることもあり、日本の考え方を議論していくことは重要。

○ 価値ある政策が実施できるよう、進むべき方向性について具体的なシナ

リオを考えていくべき。

○民間事業者も巻き込んだ取組として欲しい。

(3) 宇宙産業振興小委員会の検討状況について

事務局から、これまでの宇宙産業振興小委員会の検討状況について資料4に基づき説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○産業振興に向けて考えるべき事項が含まれていると思われる。

○スタートアップ企業・ベンチャー企業には、政府が安定的なユーザとなることで顧客の信頼感が増し、成長につながる。

○ポテンシャルユーザの目線を宇宙に向けさせることが重要。たとえば防災の分野では、いざというときに使えるよう、普段から地方自治体などとの意識共有を進めていくことが重要。

○自治体等との共同実証などで成功事例を出していくことが重要。さらに人材という観点では小学校・中学校からの教育にも力を入れていくべきではないか。

(4) 調達制度の在り方の検討について

事務局から、調達制度の在り方の検討状況について資料5に基づき説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○検討課題や、検討のための基礎的な情報がそろってきたところと理解。今後、制度と、制度の効果を最大化するための運用の両面で考えていくべき。

以 上